

第4章 各種団体ヒアリング

4-1 ヒアリングの目的、対象団体

1. ヒアリングの目的

今後の本市におけるまちづくりの展開を考えると、行政だけでなく官民協働で取り組んでいく必要があることから、各団体において感じている課題や今後の西九州自動車道の開通を意識した取り組みなどを把握することを目的に、各種団体にヒアリング調査を実施しました。

2. ヒアリング対象団体

今後の本市のまちづくりに関連の深い次の5団体にヒアリングを実施しました。

表 ヒアリング対象団体

No.	団体名	分野
1	JA伊万里	農業、畜産業
2	伊万里商工会議所	商業
3	NPO法人 まちづくり伊万里	中心市街地
4	伊万里陶磁器工業協同組合 伊万里鍋島焼協同組合	窯業
5	伊万里港振興会	港湾、流通・運送業等

4-2 ヒアリング結果

各種団体へのヒアリングにおいて出てきた意見について、問題点・課題と今後の展開・方向性に分類して以下に整理します。

団体名	問題点・課題	今後の展開・方向性
JA伊万里	<ul style="list-style-type: none"> 伊万里牛、伊万里梨など、ブランド化した良品はあるが販売戦略に弱いので、行政と協働で取り組む必要があると考えている。 	■市外への展開 <ul style="list-style-type: none"> 全国展開よりも福岡都市圏への集中展開へシフトする予定である。 福岡都市圏では「伊万里」ブランドが浸透しているため、「伊万里牛+伊万里産野菜」など、「伊万里牛+α」という組み合わせの展開を検討中。
	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅「ふるさと村」は、伊万里東IC供用開始後は客足減少が懸念される。 伊万里にわざわざ来てもらう場をつくる必要があると考えている。 伊万里のまちなかに、伊万里牛を食べたり伊万里焼を購入したりするまとまった場所がなく、今後必要と考えている。 	■来訪者対策 <ul style="list-style-type: none"> 伊万里中IC(玄関口)での展開が重要と考えている。 耕作放棄地を活用した都市部居住者の来訪戦略(体験農園など)も考えられるのではないかと。
	<ul style="list-style-type: none"> 伊万里ブランド力の向上(研鑽)が必要と考えている。 	■異業種連携(ALL伊万里の総合力勝負) <ul style="list-style-type: none"> 伊万里牛や伊万里焼などが単独で勝負するのではなく、コラボレーションして幅広く展開していくことが重要(ALL伊万里でのブランド展開、伊万里にしかないもので総合的に勝負)と考えている。
伊万里商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> 西九州自動車道延伸を控え、ICから伊万里港までのアクセス道路整備が必要と考えている。 伊万里湾北部(浦ノ崎地区)の工業団地の早期整備が必要と考えている。 	■ニーズに対応した的確な基盤整備 <ul style="list-style-type: none"> 西九州自動車道の供用開始時期を見越したアクセス道路整備や受け皿となる工業団地整備等を関係機関へ働きかける必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> 西九州自動車道は無料であるため、伊万里港活用PRや企業誘致などの展開が重要と考えている。 	■官民協働の取り組み <ul style="list-style-type: none"> 都市部での伊万里港セミナー、ポートセールス等を官民協働で実施していく予定。
	<ul style="list-style-type: none"> 福岡都市圏と一時間程度でつながるため、平戸方面への釣り客など新たな人の動きを有効に取り組んでいくことが必要と考えている。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 6次産業化の展開として「なしプロジェクト」を異業種間連携で実施中(但し、窯業関係は不参加)である。 物販だけでなく飲食も絡んだ取り組みが必要と考えている。 	■異業種連携 <ul style="list-style-type: none"> 農業だけでなく窯業も含め、異業種間連携での展開が重要と考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> イベント等のプレスリリースでは、取り上げてもらえなかった際の客足が芳しくないため、情報発信手法の工夫が必要と考えている。 	■情報発信手法の工夫 <ul style="list-style-type: none"> SNSなど、的確な情報発信手法の計画的な展開が今後重要になると考えている。

団体名	問題点・課題	今後の展開・方向性
	<p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>外国人観光客の受け入れ体制が未整備</u>であることが問題である。 	<p>■まちなか再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ● IC 周辺だけでなく、まちなかの賑わい創出も合わせて進めていくことが重要と考えている。 <p>■組織的な受け入れ体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「おかみさん会」など、受け入れ体制づくりを継続的に取り組んでいくことが重要と考えている。
NPO法人 まちづくり伊万里	<ul style="list-style-type: none"> ● 伊万里を離れても将来戻ってきもらえるような<u>取り組みが必要</u>(シビックプライド:個人個人が都市に抱く誇りや愛着のこと)と考えている。 ● まちなかの資源である伊万里川の活用が必要と考えている。 ● まちなかの不動産情報(空き家情報)が不足しているため、出店希望者ニーズがあっても対応できていない、チャンス逃している。 ● 行政と民間を結びつける場がない(行政へのまちづくり相談の際、縦割りのため複数個所に出向く必要がある。) 	<p>■ふるさと伊万里に愛着・誇りを持ち、地域課題に当事者意識をもって取り組む人を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「子ども伊万里塾」の継続的な取り組みが重要である。 ● 20～30代の若者をターゲットに伊万里の歴史を学んでもらい、そこからSNS等で情報発信してもらうことが今後のまちなかでの取り組みに非常に重要と考えている。 <p>■水辺などの地域資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 伊万里川でミズベリング(水辺の新しい活用の可能性を創造するプロジェクト)の展開を今後検討していきたい。 <p>■空き家情報の官民協働管理・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 行政が持つ情報と民間の持つ情報発信手法を融合した空き家・空き店舗情報のデータベース構築が急務と考えている。尾道市の取組が秀逸。 <p>■官民協働の取り組み推進策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>ワンストップの窓口</u>があると相談しやすい動きやすい。
伊万里陶磁器工業 協同組合 伊万里鍋島焼協同組合	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>陶芸だけでは弱い</u>と考えているため、「桜の名勝づくり」と「食の場づくり」を検討中である。 ● <u>滞在できる場、長くいたいと思える場をつくっていくことが重要</u>である。 ● 「食」と「陶芸」など、異業種連携が重要である。 	<p>■官民協働の取り組み推進策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>名勝づくり(景観づくり)</u>は、行政と協働で取り組むことが重要と考えている。 ● 伊万里東ICから大川内山までの<u>サインデザイン</u>を地元窯元と協働できればと考えている。 ● 既存のイベントだけでなく、新たなイベントや季節ごとのイベントを企画・実施しながら、年間を通して通える観光地に育てていくことが重要と考えている。 <p>■異業種連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 陶芸・食のコラボ弁当を企画中。 <p>■官民協働の取り組み推進策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>官民協働によるポートセールスの戦略的展開</u>が今後重要であると考えている。(県内立地企業への伊万里港利用促進を県と一緒に取り組んでいきたい。)
伊万里港振興会	<ul style="list-style-type: none"> ● 博多港に集中しすぎているコンテナ取扱貨物量を伊万里港の利便性をPRして利用促進を図る必要がある。 ● 県内企業の伊万里港利用促進について、佐賀県とも協力体制を組み今後も進める必要がある。 ● 西九州自動車道整備に合わせ、アクセス道路の整備も重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>アクセス道路(都市計画道路)の早期整備を国や県へ働きかける</u>ことが重要と考えている。

4-3 まとめ

各種団体へのヒアリング結果を総括すると、大きく以下の3つに集約することができます。

● 異業種連携による地域産業の振興

伊万里牛や伊万里梨、伊万里焼など、個々の「伊万里ブランド」は確立していますが、それだけでは発信力に乏しく大きな発展には結びついていないのが現状です。

そこで、陶芸と食文化のコラボレーションによる「陶板弁当」など、異業種連携による新しい取り組みを展開することで、相乗効果によるさらなる地域産業の振興に結びつけていく必要があります。

● 官民協働による取り組み展開

伊万里ブランドの情報発信や伊万里港活用促進のポートセールスなどは、民間だけで取り組んでいくことに限界があります。一方において、地域を活性化させる原動力として様々なバックグラウンドをもった民間の力が必要な取り組みもあります。

そこで、行政と民間がそれぞれ得意とする分野を生かしつつ連携して各種取り組みを展開していく必要があります。

● 時代に即した的確な情報発信手法の計画的な展開

伊万里ブランドをはじめ、本市に存在する一つ一つの資源は評価が高いものの、その情報発信の部分が弱いことから認識されていないことも多く、チャンスを逃していることも否めません。

そこで、本市を代表する伊万里ブランドのPRから本市の日常的な風景に至るまで、様々な場面の情報発信について、行政単位のPR動画の作成からSNSなどの個人発信まで、的確な情報発信手法を計画的に展開していく必要があります。あわせて、情報発信の質の向上を図るためにも、「子ども伊万里塾」などシビックプライド（個人個人が都市に抱く誇りや愛着のこと）を育むことも継続して取り組んでいく必要があります。